

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092700063		
法人名	社会福祉法人なごみ福祉会		
事業所名	なごみ園グループホーム	ユニット名	2
所在地	福岡県豊前市大字三毛門914番地1		
自己評価作成日	平成24年2月7日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月20日	評価結果確定日	平成24年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな一緒にゆっくり明るく支えあう</li> <li>・言葉の使い方に気を付ける</li> <li>・介護職としての研鑽に務める</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が玄関に入ると目に付く場所に掲示されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運動会、文化祭、敬老会、どんど焼きなどの地域の行事に利用者と職員が参加している。地元の保育園・小学校の行事に招待されて参加させて頂いたり、ホーム内での夏祭りやクリスマス会に招待したりして、楽しく共に過ごし、ふれあいを深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「なごみ園新聞」の配布などでなごみ園の実践を伝えている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、利用者・家族代表・行政・民生委員会・管理者等が参加して実施している。参加できない場合は、会議録を配布して次回につなげる取り組みをしている。会議では、活動報告や質問、意見、要望などを聞き、ホームの活動に活かせるように努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議以外にも相談や指導、情報提供を行って市との連携に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を実践し職員が理解できるよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部門会議にて虐待を見逃ごす事がないよう話し合い、日常においても高齢者の身体、声掛けなど職員同士で注意し防止に努めている。	

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている利用者があることを通じて職員は学び、また後見制度についての内部研修も行われている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解・納得いくまで説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置している。・利用者は月一回の「なしかの会」で意見を聞くようにしているが、現在は利用者の重度化が進み意見が出ない事が多いため、日常生活の中で意見や要望を聞いたり探したりして、実行に努めている。・家族は、面会時や月一回の「家族会」にて意見や要望を聞いている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の部門会議や主任会議にて意見を聞き、相談しやすい環境を作り、介護の充実に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任会議などで意見を聞き就業環境を考えている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、資格や経験だけにとらわれずに面接をし、採用を行っている。資格取得への対応には勤務調整で職員が安心して取り組めるように配慮している。外部研修やイベントへの案内を全職員に周知し、社会参加できるように取り組んでいる。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市の人権委員会主催の人権学習に参加し、参加できない職員には伝達研修を行っている。月一回認知症学習会を開催し、職員に対しての人権を尊重する介護の実践に向けての教育に取り組んでいる。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には、職員の勤務体制を整えて参加できるようにしている。スキルアップ研修や資格取得のための研修には積極的に取り組めるように支援体制ができています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが地域の同業者の勉強会が開かれており、参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能であれば、利用頂く前に園に来て頂き、ご本人の意向をお尋ねし、少し体験して頂く等して不安の解消に努めている。また、生活の場でも職員一丸となって対話を重視し、利用者に安心と信頼の人間関係の構築に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家庭訪問や来園頂いたりして、園に求めている事、また園でできること等話し合いながら良い人間関係の構築を図り、不安の解消に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に際しての理由をよく聞き、必要としている支援を見極めるよう努めており、他のサービスの利用に対する支援にも対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者が出来る事は出来るだけ手伝いをして頂き、野菜作りや花の手入れの仕方を教わったり等支え合う関係を探しながら介護にあたっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時に近況報告を説明を行い、家族とも良いコミュニケーションを図り家族と共に本人を支えていく関係を大切にしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レベルが低下しているために人や場との関係を継続するための外出等が困難になっているが、できるだけ近くの方が来園できる環境作りに取り組んでいる。敬老会の出席、市報配布、面会時には次回も来園頂けるような対応等を心掛けている。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つのテーブルで隣同士になった人は互いに話し合ったり、世話をしたりしている。席決めや、出来るだけ手出しをしない介護で支え合いを引き出したいと努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠された方には、節目節目にはお参りに行かせて頂いている。又、家族も園に立ち寄り懐かしいお話をして帰られる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回の「なしかの会」では利用者の食事の希望や外出の意見を聞くようになっている。日常生活の中で意見や要望を聞いたり探したり、家族から情報を得たりして、実行に努めている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、これまでの暮らしについて家族より情報を得たり、本人の言動や回想の中から情報を取り出したりしてサービスに努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、心身状態の観察、申し送りでのスタッフ全員が把握できるように努めている。また、心身状態の低下も進み、急変時の状態等の対応においてもスタッフ間の共有した介護となるように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き部門会議にて話し合い援助方針を決めている。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌には1日の状態が把握できるように明確に記入している。申し送りに詳細に行っており、これらを活かしながら介護計画の見直しをしていく。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて家族と相談しながら取り組んでいる。帰宅願望が強いご利用者には、職員が付き添い自宅まで歩いて帰る事もある。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会等に参加したり、住み慣れた地域の中での生活が楽しめるよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を大切にしている。家族が受診介助が出来ない時には職員が受診介助して結果を家族に報告している。また、何かあれば直ぐに連絡して指示を受けたり、必要時には往診もして頂いている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りには、看護師も加わり状態の把握に努めている。症状の変化時には、看護師へ伝え相談行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族とともに主治医へ病状の説明を聞き状態の把握を行ない相談行っている。また、職員が面会にも行き状況の把握に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご利用者が「重度化し看取りの必要性が生じた場合の指針」を提示、説明を行い同意を得ている。ご利用者、家族の意向を聴き主治医と連携し取り組んでいる。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、部門会議等で確認し対応の手順などを学んでいる。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の避難訓練や月1回避難訓練を実施し、通報の仕方や初期消火について等訓練を行なっている。近隣の方が参加される事もある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのペースを尊重し対応している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を尊重する為に必ず声掛けし確認するようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就床も自由にされており、本人の希望を聞くよう努めている。買い物希望されるご利用者は、職員が同行し希望に添えるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できない方には、家族に好みの服装等の情報を聞き身だしなみが出来るよう配慮している。また、衣類の買い物等も家族にお願いする。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する希望があれば厨房へ伝えるようにしている。21年度目標とした職員も一緒に同じ食事を摂る事も現在は実践でき、同じテーブルで食事を摂っている。食器の片づけ等もできる方には一緒に行っている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態をとり、水分摂取困難な方には水分の種類を変えたり、とろみの使用等で水分量の確保に努めている。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに努め、自立で出来ない人は声掛け介助にておこなっている。義歯洗浄は職員がしている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴え時には本人の希望どうり対応している。排泄の訴えの無い利用者は排泄時間を記録し、一人一人のパターンを把握しトイレでの支援を行なっている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握、ヨーグルトや繊維質の多い食べ物の摂取。園内歩行等を行ない努めている。また、個々の排便のリズムを把握し排泄介助を行なっている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在利用者に応じて1～3名で対応している為、職員のローテーションの確保ができず、夜間の入浴には対応できていない。週3回の入浴日は本人の希望を聞き入浴できるよう対応している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休めるように支援行っている。気持ちよく眠れるよう衣類や室温に注意している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの処方箋を記録にファイルし職員が内容を把握できるようにし、症状の変化や服薬の変更時は申し送りにて職員間で、把握・確認できるよう努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸が得意な方は自由に園庭に木を植えたり、歌が好きの方はレク等で、歌ってもらったりとそれぞれが得意な事が出来るよう支援行なっている。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望は月1回の「なしかの会」で、希望を聞きできるだけ添えるようしている。希望に添えない時は、家族に希望を伝え外出できるよう支援している。また、家族との外出時、車いすの方の移動の支援も行ない外出の機会を持てるよう支援行なっている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ほとんどの利用者は、お金の理解ができず園にて管理している。家族と買い物等に行かれる利用者は、家族にて行っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より連絡の希望があれば、こちらが電話をつないだりしている。手紙のやり取りは現在希望はない。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花など季節感を取り入れるようにしている。家具等家庭的なものを設置したりしている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身が好みの場所に行かれ、自由に過ごされている。ソファで、気の合った利用者同士おしゃべりしたり、併設のデイサービス等にも自由に行き来されている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、すべて個室となっておりマッサージ機やタンス等本人の好みの物を置かれ落ち着いて過ごせるようになっている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・ホールに壁に手すりを丁度よい高さに設置しており、座位・立位がしやすい高さになっている。皆が利用するところには錯覚を引き起こす鏡の設置はしていないが、なんともない方には使用できるよう小さい鏡を用意している。		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が玄関に入ると目に付く場所に掲示されている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運動会、文化祭、敬老会、どんど焼きなどの地域の行事に利用者と職員が参加している。地元の保育園・小学校の行事に招待されて参加させて頂いたり、ホーム内での夏祭りやクリスマス会に招待したりして、楽しく共に過ごし、ふれあいを深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「なごみ園新聞」の配布などでなごみ園の実践を伝えている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、利用者・家族代表・行政・民生委員会・管理者等が参加して実施している。参加できない場合は、会議録を配布して次回につなげる取り組みをしている。会議では、活動報告や質問、意見、要望などを聞き、ホームの活動に活かせるように努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議以外にも相談や指導、情報提供を行って市との連携に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を実践し職員が理解できるよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部門会議にて虐待を見逃ごす事がないよう話し合い、日常においても高齢者の身体、声掛けなど職員同士で注意し防止に努めている。	

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用されている利用者があることを通じて職員は学び、また後見制度についての内部研修も行われている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解・納得いくまで説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置している。・利用者は月一回の「なしかの会」で意見を聞くようにしているが、現在は利用者の重度化が進み意見が出ない事が多いため、日常生活の中で意見や要望を聞いたり探したりして、実行に努めている。・家族は、面会時や月一回の「家族会」にて意見や要望を聞いている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の部門会議や主任会議にて意見を聞き、相談しやすい環境を作り、介護の充実に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者・主任会議などで意見を聞き就業環境を考えている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢、資格や経験だけにとらわれずに面接をし、採用を行っている。資格取得への対応には勤務調整で職員が安心して取り組めるように配慮している。外部研修やイベントへの案内を全職員に周知し、社会参加できるように取り組んでいる。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	市の人権委員会主催の人権学習に参加し、参加できない職員には伝達研修を行っている。月一回認知症学習会を開催し、職員に対しての人権を尊重する介護の実践に向けての教育に取り組んでいる。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には、職員の勤務体制を整えて参加できるようにしている。スキルアップ研修や資格取得のための研修には積極的に取り組めるように支援体制ができています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが地域の同業者の勉強会が開かれており、参加している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能であれば、利用頂く前に園に来て頂き、ご本人の意向をお尋ねし、少し体験して頂く等して不安の解消に努めている。また、生活の場でも職員一丸となって対話を重視し、利用者に安心と信頼の人間関係の構築に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家庭訪問や来園頂いたりして、園に求めている事、また園でできること等話し合いながら良い人間関係の構築を図り、不安の解消に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に際しての理由をよく聞き、必要としている支援を見極めるよう努めており、他のサービスの利用に対する支援にも対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者が出来る事は出来るだけ手伝いをして頂き、野菜作りや花の手入れの仕方を教わったり等支え合う関係を探しながら介護にあたっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時に近況報告を説明を行い、家族とも良いコミュニケーションを図り家族と共に本人を支えていく関係を大切にしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レベルが低下しているために人や場との関係を継続するための外出等が困難になっているが、できるだけ近くの方が来園できる環境作りに取り組んでいる。敬老会の出席、市報配布、面会時には次回も来園頂けるような対応等を心掛けている。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つのテーブルで隣同士になった人は互いに話し合ったり、世話をしたりしている。席決めや、出来るだけ手出しをしない介護で支え合いを引き出したいと努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	永眠された方には、節目節目にはお参りに行かせて頂いている。又、家族も園に立ち寄り懐かしいお話をして帰られる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回の「なしかの会」では利用者の食事の希望や外出の意見を聞くようになっている。日常生活の中で意見や要望を聞いたり探したり、家族から情報を得たりして、実行に努めている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、これまでの暮らしについて家族より情報を得たり、本人の言動や回想の中から情報を取り出したりしてサービスに努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、心身状態の観察、申し送りでのスタッフ全員が把握できるように努めている。また、心身状態の低下も進み、急変時の状態等の対応においてもスタッフ間の共有した介護となるように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き部門会議にて話し合い援助方針を決めている。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌には1日の状態が把握できるように明確に記入している。申し送りに詳細に行っており、これらを活かしながら介護計画の見直しをしていく。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて家族と相談しながら取り組んでいる。帰宅願望が強いご利用者には、職員が付き添い自宅まで歩いて帰る事もある。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会等に参加したり、住み慣れた地域の中での生活が楽しめるよう支援している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を大切にしている。家族が受診介助が出来ない時には職員が受診介助して結果を家族に報告している。また、何かあれば直ぐに連絡して指示を受けたり、必要時には往診もして頂いている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送りには、看護師も加わり状態の把握に努めている。症状の変化時には、看護師へ伝え相談行なっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族とともに主治医へ病状の説明を聞き状態の把握を行ない相談行なっている。また、職員が面会にも行き状況の把握に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご利用者が「重度化し看取りの必要性が生じた場合の指針」を提示、説明を行い同意を得ている。ご利用者、家族の意向を聴き主治医と連携し取り組んでいる。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、部門会議等で確認し対応の手順などを学んでいる。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の避難訓練や月1回避難訓練を実施し、通報の仕方や初期消火について等訓練を行なっている。近隣の方が参加される事もある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのペースを尊重し対応している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を尊重する為に必ず声掛けし確認するようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就床も自由にされており、本人の希望を聞くよう努めている。買い物希望されるご利用者は、職員が同行し希望に添えるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できない方には、家族に好みの服装等の情報を聞き身だしなみが出来るよう配慮している。また、衣類の買い物等も家族にお願いする。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する希望があれば厨房へ伝えるようにしている。21年度目標とした職員も一緒に同じ食事を摂る事も現在は実践でき、同じテーブルで食事を摂っている。食器の片づけ等もできる方には一緒に行っている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態をとり、水分摂取困難な方には水分の種類を変えたり、とろみの使用等で水分量の確保に努めている。		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアに努め、自立で出来ない人は声掛け介助にておこなっている。義歯洗浄は職員がしている。</p>		
45	(19)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄の訴え時には本人の希望どうり対応している。排泄の訴えの無い利用者は排泄時間を記録し、一人一人のパターンを把握しトイレでの支援を行なっている。</p>		
46		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取量の把握、ヨーグルトや繊維質の多い食べ物の摂取。園内歩行等を行ない努めている。また、個々の排便のリズムを把握し排泄介助を行なっている。</p>		
47	(20)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>現在利用者に応じて1～3名で対応している為、職員のローテーションの確保ができず、夜間の入浴には対応できていない。週3回の入浴日は本人の希望を聞き入浴できるよう対応している。</p>		
48		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>自由に休めるように支援行っている。気持ちよく眠れるよう衣類や室温に注意している。</p>		
49		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>病院からの処方箋を記録にファイルし職員が内容を把握できるようにし、症状の変化や服薬の変更時は申し送りにて職員間で、把握・確認できるよう努めている。</p>		
50		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>園芸が得意な方は自由に園庭に木を植えたり、歌が好きなお方にはレク等で、歌ってもらったりとそれぞれが得意な事が出来るよう支援行なっている。</p>		

福岡県 なごみ園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者からの希望は月1回の「なしかの会」で、希望を聞きできるだけ添えるようしている。希望に添えない時は、家族に希望を伝え外出できるよう支援している。また、家族との外出時、車いすの方の移動の支援も行ない外出の機会を持てるよう支援行なっている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ほとんどの利用者は、お金の理解ができず園にて管理している。家族と買い物等に行かれる利用者は、家族にて行っている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より連絡の希望があれば、こちらが電話をつないだりしている。手紙のやり取りは現在希望はない。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花など季節感を取り入れるようにしている。家具等家庭的なものを設置したりしている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身が好みの場所に行かれ、自由に過ごされている。ソファで、気の合った利用者同士おしゃべりしたり、併設のデイサービス等にも自由に行き来されている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、すべて個室となっておりマッサージ機やタンス等本人の好みの物を置かれ落ち着いて過ごせるようになっている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・ホールに壁に手すりを丁度よい高さに設置しており、座位・立位がしやすい高さになっている。皆が利用するところには錯覚を引き起こす鏡の設置はしていないが、なんともない方には使用できるよう小さい鏡を用意している。		